

「志」、「不屈」、「謙虚」の人

田中 清行

久保田暁一先生が召天されましたことに哀悼の意を捧げます。

先生は教師を辞めて小説家になるという「志」の人で、それを貫くために「不屈」の闘志を持っておられました。その結果、何冊も

の本を出版され、その中には私が愛読している『中江藤樹』もあります。

晩年には、病魔に侵されても凛としていらつしやいました。先生は、周りの人

にとつて慈父のような存在でした。いつも穏やかなお顔で、思いやりのある言葉をかけ、優しいまなざしで話を耳を傾け、思いやりの心で誰とでも接する（五事を正す）ことを体現されていた「謙虚」の人でした。

私は、久保田先生の背中を見て先生のような人になりたいとお慕いしておりました。童心塾へ毎月行つておりましたので、先生を車で長浜の童心塾へお連れした時にはたいそう喜んでくださいました。

私が平成二十三年に「藤樹人間学学習会」を立ち上げると、初回は久保田先生と徳丸和枝さんと私の三人

でした。はじめの三年間は『翁問答』をテキストに進めました。先生は皆出席して下さり、時々お考えを吐露していただきました。『翁問答』の次は『大学解』がよいのでは、というアドバイスをいただきました。『大学解』を一年半かけて進めました。

現在は「藤樹人間学塾」と改称して『孝経啓蒙』をテキストに毎月、人間学を学び続けております。

私が今日、塾長として道友と楽しく学んでいけるのも、久保田先生から折りにつけ、適切なアドバイスをいただき、慈愛のお心で見守って下さったお陰です。

久保田先生、本当にありがとうございました。先生が敬愛されていた中江藤樹の思想を私も微力ながら道友とともに顕彰し、少しでも地域のために精進してまいりますので、どうぞ天から見守っていてください。



久保田暁一先生を追悼して

淵田 京子

久保田先生との出会いは、今から五十年前。私が高校三年生のときでした。

若かりし頃の先生は、授業に大変熱心であり、騒いでいる生徒にはすごい勢いで説教されていたことを思

い出します。授業はストップし、教室には先生の大きな声が響き渡りま

した。あの温和なやさしい顔つきからは、想像もできないほどでした。

ひたむきに教育に打ち込み、担任として私たちの心の中にまで入り込んで、情熱を持って指導して下さる姿には感服でした。「失敗を恐れず、転んでも転んでも起き上がる『七転び八起き』の不屈の精神を持つてがんばりなさい」とおっしゃっていたことが、今でも強く心に残っています。

高校を卒業して二十年間は五年ごとに、三十年以降は毎年クラス会が開催されています。先生は教え子からの近況報告を聞くのを楽しみに、毎年出席してくださいました。ここ数年は、先生のお体を次から次へと病魔が襲いましたが、持ち前の粘り強さで昨年まで元気な姿を見せてくださっていました。ところが、今年のクラス会ではお顔が見えなかったのです。参加者全員、先生のお体を案じておりました。

突然の訃報で言葉を失いましたが、大阪・京都・大津と多方面から最後のお別れにと大勢の者が先生のもとに集まりました。そして、もうクラス会に出席して頂けない寂しさをかみしめながら、哀悼の意を表しました。

現在、私は藤樹書院で、全国各地

から見学に来られた方への接待をしています。

以前、「『致良知』を中江藤樹は良知に致る（いたる）」と読み、王陽明は良知に致す（いたす）」と読んでいますが、相違点を教えてくださいます。「と質問されたことがあります。

そこで私は、「中江藤樹は、内省的・静観的であり、良知を曇らせる人間の考えや意識、つまり情欲を取り除くことを大切な修行の眼目にしています。一方、王陽明は、より行動的・積極的であり、自らが事に当たって鍛錬することに重点を置いています。そのため、二人の『致良知』の読み方が異なります。」と答えました。このことは、久保田先生の『中江藤樹』の本の中に書かれていたため、説明することができたのです。

後日、このエピソードを先生にお伝えすると、穏やかな笑顔でとても喜んでくださいました。その笑顔が今でも脳裏に焼き付き、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございます。ご冥福をお祈り申し上げます。

